

目指せ!

超優良銘柄が丸分かります

決算書読みの達人

春は決算期。企業が発表する決算書は、投資家にとって「お宝情報の山」だ。とはいえ、分厚い書類をコツコツ読み解くのは骨が折れる。ここでは「セクター別の注目点」や、「投資スタンス」によって変わる銘柄の選び方をピンポイントで解説する。

Part 1 業種別・決算書読みの「コツ」

長期投資における決算書の役割

- ① 将来業績を予測するための「現状把握」
- ② 適正株価水準を「見極める」ための下地

株価は、将来の見通しで動く。このため、長期投資で必要なことは、将来の業績を的確に判断する能力であり、過去の業績を示す決算書の分析に傾注するのは非効率、あるいは無意味だと考えている人が意外に多い。

しかし、企業における現在の業績が「過去の業績の積み重ね」であるのと同様、将来の業績は現在の業績の延長線上にある。将来の業績をきちんと予測するには、まずは現状把握が必要であり、そのためには決算書の分析が重要になる。

また、いくら将来の予測が正確にできたとしても、株価が割安か否か



うえまつ りょう
植松 亮

公認会計士・税理士
ワンフォアワン 代表取締役

早稲田大学商学部卒業。ブリヂストン、センチュリー監査法人（現、新日本監査法人）を経て1998年に独立。現在、会計事務所とコンサルティング会社の経営に従事するほか、ベンチャー企業の社外役員として中小企業の経営をサポートしている。財務分析に基づいた株式投資も実践しており、著書に『個人投資家のための銘柄選びに差がつく！ 決算書の読み方』（アルケミックス）がある。ホームページは<http://www.uematsu-pro.com>

を判断できなければ話にならない。

たとえば、ある会社のEPS（1株当たり利益）が1年後に10倍になると予想しても、株価がすでに割高な水準と分かていれば、投資には慎重にならざるを得ない。決算書で企業の実力を把握し、適正な株価水準を分析することは、投資家にとって必要不可欠のスキルだ。決算書は、株価の現状分析・業績の将来予測のいずれにも役立つのであり、ゆえに、株式投資においては、決算書を読む力が重要だ。

決算書を読む場合、業種によって注目点を変えよう

だが、決算書の財務データは、実は業種ごとに特徴が相当異なる。そこで銘柄選定にあたって決算書を利

意味

本業における総合的な収益力が分かる指標

所有資産すべてを利用して、どれだけ利益を得たかを見る指標

株主資本を利用して、どれだけ利益を得たかを見る指標

全調達資金のうち、株主から調達した返済不要の資金割合がどのくらいあるかを見る指標

短期回収資金と短期支払資金の割合を見る指標

流動比率における短期回収資金を、もっとも確実な回収予定の資産に限って保守的に計算した指標

固定資産が、長期調達資金でどの程度賄われているかを示す指標

事業規模に比較して有利子負債が過大でないかを見るための指標

事業の成長性を売上高の増減で見る指標

事業の成長性を当期純利益の増減で見る指標

事業の成長性を総資産の増減で見る指標

研究開発費の水準を見るための指標

資産の効率性を見る指標で、現状の売上高を達成するのに、総資本を何回転させたかが分かる

売掛債権の効率性を見る指標

棚卸資産（商品や製品）の効率性を見る指標

本来の営業活動で獲得した資金を示す

設備投資などで支出した資金や、資産売却で得た資金を示す

借入金や増資などによる調達資金や、株主への配当で支出した資金を示す